



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Workshop2. クマの防御および撃退法
Author(s)	前田, 菜穂子
Citation	新ひぐま通信 別冊 : 第7回国際クマ会議報告書, 17-18
Issue Date	1986-08-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/91578
Type	report
File Information	workshop2.pdf



Workshop II. Personal Defense Equipment / Bear Attack Avoidance.

クマの防御および撃退法

のぼりべつクマ牧場

前 田 菜穂子

約30名のアメリカクロクマ、ヒグマ、ホッキョクグマの研究者が参加して行われた。クマの防御法として考えられるものに、音、化学物質、物理的方法が上げられその実際が紹介された。

まずはじめに、クマの忌避剤について報告された。商品名・HALT DOG REPELLENT, 犬の忌避用スプレーとして市販されているもので、内容物は Capsaicin 0.35% (北大薬学部 徳光先生の話では、トウガラシのピリッとさせる成分で最近注目されている、中枢神経を刺激する物質。) 不活性成分99.65%と表示されている。使用法は、クマが近付いて来たらスプレーをかけるというもので、クロクマに特に有効で現場の実際例がいくつか紹介された。

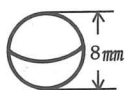
しかし、ヒグマの研究者から、クロクマとヒグマでは危険度が違うので現実にはどうかという質問があった。そこで、アラスカ、カトマイ 国立公園の National Park Service の Katherine 氏から現場報告があった。ここにあるブルックス川は、サケの遡上時期に沢山のヒグマが集まり、釣り人などとの接近もかなりある事で有名である。ここには、飛行機でなければ入れないため、来訪者すべてをチェック出来る事、宿泊所が一ヶ所のみで管理しやすい事が事故防止には最良だという。すなわち、来訪者すべてに、まずここはクマの国であり、クマが主人であるという認識のもとに行動すること、その上でクマへの対応のし方を教育することが最も有効であり重要だと強調した。ヒグマとのトラブルはほとんどなく、年2~3回宿に接近し過ぎたヒグマを追い帰すため、ゴム製の直径8mmのボールやプラスチック製の弾丸を銃で発射させる事がある程度だという。その他として、ベアベルやホイッスルは効果がある事、食料の保存はコンクリートの壁で囲み臭いを遮断する事、ゴミの完全処理、来訪者が歩く所にフェンスをすると、クマはそれに沿って歩く事等が紹介された。スプレーについては確定的な効果は得ていない様であった。

次に、ホッキョクグマの研究者から別のスプレーが紹介された。商品名を LYNCO BIG RED, Air Chemi Horn といいスプレーのボタンを押すと、飛び上るほど大きな音がブーとなる。内容物は Dichlorodifluoromethane。効果は結構あるとのことだ。その他クレオソート、アンモニア、コロラックス等の化学物質を試したが良い結果は得られなかったという。

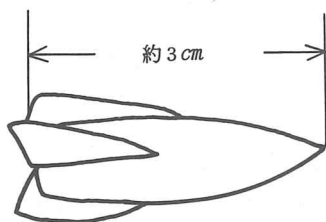
フリーディスカッションでは、技術がいるが、一頭のみは猟犬によって守ることはどうか、

ボーカルコミュニケーションの応用として母グマの威嚇音はどうかなど出された。

時間も過ぎ話が出そろった所で、モンタナ大学の Jonkel 博士は、私は長年クロクマもヒグマも相手にして研究してきたが、私とクマとの間にトラブルはなかった。問題となるのは一般の人々がクマに対する認識不足によって引き起こされるトラブルやアクシデントが最も重大な事であり、クマについての教育が今は最も大切であると結んだ。



ラバーボール
弾力のあるゴム製



T. B. S plastics
プラスチック製 3枚の矢羽
が付いた弾丸

